

## 個別の教育支援計画・移行支援計画の運用における

### 知的障害当事者の参画についての提案

#### —高等部進路指導におけるセルフサポートブックの作成—

勘田 陽子（長崎大学教育学部附属特別支援学校）

鈴木 保巳（長崎大学大学院教育学研究科）

石川 衣紀（長崎大学教育学部）

#### I はじめに

個別の教育支援計画について藤井・高田屋（2017）は、「関係者による支援会議の開催、活用システムの検討、計画作成における本人や保護者の参画が個別の教育支援計画を有効に機能させる方法である」と報告している。しかし、知的障害のある高等部生徒が計画内容に主体的に参画できる仕組みの検討は、まだ十分になされていない。

筆者はこれまで十数年、知的障害特別支援学校高等部で多くの生徒・保護者と関わり個別の教育支援計画を作成してきたが、書くだけの作業に追われてしまいこれらを十分に活用できてきたかと問われると自信をもってそうとは言い切れないところがある。更に、進路先と行う移行支援会議においては、話題の中心である生徒本人の参加が不十分で、多くの時間を進路先関係者や教員、保護者といった大人同士の話し合いに割いていたことも事実である。

そこで、本研究は、高等部における個別の教育支援計画・移行支援計画の効果的な運用法の検討として、「本人・保護者の参画」という点に注目し、生徒が参画できる「生徒版個別の教育支援計画」としてセルフサポートブック（以下 SSB）の作成を試み、実践を行った。

また、東京都心身障害者福祉センター精神薄弱科の軽度知的障害者に対する自己理解援助のプログラム（山田，1995）では、「軽度知的障害者が自己理解をする場合に基本となることは、①障害の理解、即ちできることとできないことを理解する、②自分を肯定的に見る、③自分の考えをもち、発言できる、④必要な、わかりやすい情報を得る、⑤必要なときに手助けを頼められるである」とその援助の視点を提示している。SSB を作成する上でこれらの①～⑤の視点をを用い、自己理解を促す実践としても取り組んでいくこととした。

## Ⅱ 方法

### 1 SSB の内容・構成

生徒の作成する SSB は、「1 プロフィール」「2 私の周りのサポーター」「3 得意なこと・苦手なこと」「4 現場実習の履歴」「5 私の大事な進路決定プロセス」の 5 つの категорияで構成し、シートは合計 16 種類の項目からなる（図 1）。SSB の内容については、本校の個別の教育支援計画の様式に準拠しており、「LITALICO ジュニアサポートブック第 2 版」（LITALICO ジュニア，2016）も参考とした。体裁は A5 サイズのリングファイルとし、生徒の作成しやすさを考慮し、授業で使用した学習プリントを綴じていく方法をとった。シートの大半が記述式であるが、付箋紙を用いたものや掲示教材を写真にしたものも綴じた。

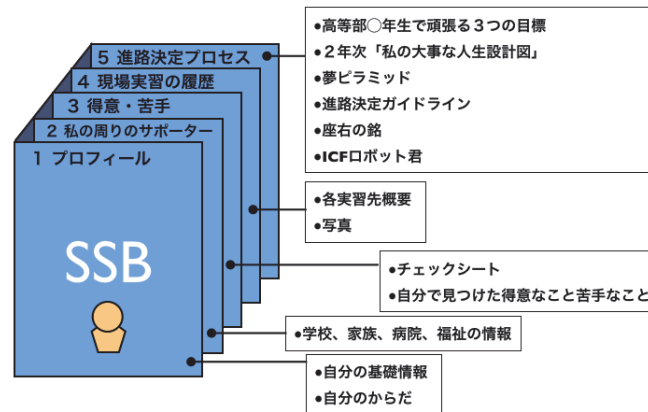


図 1 SSB の構成

SSB は、生徒自身が「自分のことをより知るため」、「自分のことをより（相手に）分かってもらうため」に作成するものであることを授業開始時に毎回生徒と確認し、意識付けを図った。併せて、自分に成長・変化が見られた場合は随時更新していくことも確認した。

カテゴリー1・2 では特に個別の教育支援計画と内容をリンクさせ、3 は自己理解、4 は現場実習、5 は個別の移行支援計画につながる内容として位置付けた。SSB の各項目と内容について、表 1 に示す。

### 2 SSB の作成と活用

**対象** 第 1 期：A 知的障害特別支援学校高等部 3 学年の生徒 7 名と保護者

第 2 期：A 知的障害特別支援学校高等部 1 学年の生徒 8 名と保護者

#### 期間

第 1 期、第 2 期通じて 201X 年 4 月～翌々年 3 月の週 2 時間の「進路」の授業等で SSB の作成及び活用を試みた。また、授業以外に夏季休業中などは SSB を自宅に持ち帰らせ、保護者が参画する機会を設けた。

表 1 SSB の内容

カテゴリー	項目	内容	記入法
1 プロフィール	自分の基礎情報	名前、生年月日、住所、電話番号、療育手帳、緊急連絡先	箇条書き
	自分のからだ	アレルギーの有無、特記事項	体のイラストに記入
2 私の周りの サポーター	学校	学校名、住所、電話番号、卒業時の担任・副担任、卒業年月日	箇条書き
	家族	続柄、氏名、同居の有無	
	病院	病院名、担当医、頻度、通院理由、薬の種類と回数及びサポートの有無	
	福祉	施設名、利用日、活動・サービス内容、主担当、相談支援事業所	
3 得意なこと・ 苦手なこと	チェックシート	仕事（10項目）、コミュニケーション（10項目）、日常生活*（15項目）	5（3*）段階でチェック
	自分で見つけた得意・苦手	縦軸：得意なこと、苦手なこと 横軸：家庭生活・社会生活、職業生活	付箋紙に記入後添付
4 現場実習の 履歴	現場実習の履歴	期間、実習先、経験した作業、自分の気持ち	箇条書き
	記録写真	写真枠	写真を添付
5 進路決定 プロセス	高等部で頑張る3つの目標	年間目標、頑張るポイント（前・後期分）、自己評価（前・後期分）	箇条書き
	私の大事な人生設計図	進路先を考えるとときのポイント、現時点での進路の方向性	個別のホワイトボードに記載
	夢ピラミッド	わたしの夢（将来像）、夢を実現させるために必要な力	箇条書き
	進路決定ガイドライン	3年間の進路決定に至るまでの流れ（主な行事と学年のテーマ）	項目プレート並び替え
	座右の銘	座右の銘、意味	箇条書き
	ICF ロボット君	強み、弱み、健康状態、サポーター卒業後の生活、卒業後の準備	箇条書き

### 3 保護者アンケートの実施

保護者との連携を図るため、生徒を介した情報の共有が必要と考え、現場実習期間中における生徒の変容についてアンケートを実施した。第1期では、「現場実習に向けての気持ちの整理状況」、「家庭における『仕事』や『進路』、『作業』な

ど働くことへの関心度」、「自宅での手伝いなど役割に対する意識度」について前期現場実習時と後期現場実習時を比較する項目にした（図2）。第2期では保護者にとって現場実習が初めてであるため、実習先で取り組んでいる作業内容が本人に適しているかを問うた。更に普段の学校生活と現場実習中の生活の違いを次の3項目で問うた。「体力の消耗度」、「親子の会話量」、「活動への意欲」である。第1期、第2期共にアンケート項目以外での気づきや感じたことが書けるように自由記述欄を設けた。

<保護者アンケート>

1 現場実習に向けての気持ちの整理状況

2 家庭における「仕事」や「進路」、「作業」など働くことへの関心度

3 自宅での手伝いなど役割に対する意識度

<p><input type="checkbox"/> 1 緊張している</p> <p><input type="checkbox"/> 2 あまり話題にしない</p> <p><input type="checkbox"/> 3 受け入れない</p>	<p><input type="checkbox"/> 1 落ち着いている</p> <p><input type="checkbox"/> 2 話題にする</p> <p><input type="checkbox"/> 3 実行する</p>
---	--

【前回】

1	2	3	4
---	---	---	---

【今回】

1	2	3	4
---	---	---	---

図2 第1期保護者アンケート

### Ⅲ 結果と考察

#### 1 SSBの作成過程と生徒の様子

##### (1) カテゴリー1「プロフィール」

###### ア 自分の基礎情報

履歴書などを書く際に必要になる自分の基礎情報（生年月日、住所など）をまとめるシートである。手帳を所有していることで利用できるサービスが何であるかを知るため、また、手帳更新の時期を把握しておくために療育手帳区分の項目も立てた。所有している手帳について自分の区分が何であるかを知らない生徒がほとんどであったため、療育手帳を見ながら区分や更新時期を全体で確認した。更に手帳にどのような情報が記載されているかについて改めて確認した。

###### イ 自分のからだ

全身のイラストをシートに用いた。体のどの部分に支援や配慮が必要であるかを分かりやすくするため、該当箇所に○印を付けて特徴等を書くようにした。体の情報については本人だけでは情報量が少なく記入が難しかったため、保護者にも協力を得た。記載例を表2に示す。

##### (2) カテゴリー2「私の周りのサポーター」

###### ア 学校

所属感の意識付けと共に卒業後に頼れる身近な存在として在籍していた学校の

表 2 自分のからだの記載例

特 徴	予防法・対処法
大きな音が苦手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に知らせる</li> <li>・状況に応じて耳栓を着ける</li> </ul>
手荒れがひどい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗浄作業ではゴム手袋をする</li> <li>・ハンドクリームを塗る</li> </ul>

情報をまとめるシートである。住所や電話番号について、本人だけでは番地までの細かい部分の記入が難しかったため、教員が提示したものを見て記入するようにした。

### イ 家族

一番身近な支援者である家族の情報をまとめるシートである。離れて生活していても、困ったときに自分を助けてくれる人がいるということ把握するためのシートである。同居している家族だけでなく離れて暮らす祖父母についても積極的に記入する姿が見られ、本人にとって身近な存在であることがうかがえた。

### ウ 病院

通院している病院名や通院の頻度などについてまとめるシートである。第2期では、薬の効果の理解を促すために「⑤薬の種類と回数」という項目を追加した。病院の情報については、本人による記入が難しかったため、保護者に協力を得た。

### エ 福祉

様々な福祉サービス（放課後等デイサービスなど）についてまとめるシートである。記入を通して、現在、福祉サービスを利用していなくても、療育手帳を持っていることで利用できるサービスについて考えたり、友達が利用しているサービスを知る機会になったりした。頻繁に放課後等デイサービスを利用している生徒は各項目自分で記入することができたが、相談支援事業所（担当者）については、保護者に協力を得た。

## (3) カテゴリー3「得意なこと・苦手なこと」

### ア チェックシート

「仕事」、「コミュニケーション」、「日常生活」に関するチェックシート<sup>\*1</sup>を用いて、自分の得意なこと・苦手なことに関する情報を本人がどれくらい把握しているかを知るためのシートである。「仕事」、「コミュニケーション」については5段階で、「日常生活」については3段階で評価を行った。初めは設問項目や自分自身のことについての理解が不十分だったため、全項目を「得意」としたり「苦手」としたりする生徒が数名いた。しかし、学期に一度、チェックする機会を設けることで、設問項目や自分自身のことについての理解が進み、妥当性のある自己評価ができるようになった。

<sup>\*1</sup> WEL'S 新木場（監）：ひとりだちするための就労支援ノート. の P29, 30, 46, 47 を改変したもの

## イ 自分で見つけた得意なこと・苦手なこと

視覚的に分かりやすくなるように、ピンクの付箋に得意なこと、ブルーの付箋に苦手なことを書いて貼るようにした。自分が得意・苦手としていることが、職業生活につながるものか、家庭・社会生活につながるものかを捉えるシートである。付箋の項目を見て、座標軸のどの辺りに位置するかを自分で考えながら取り組む姿が見られた。

## (4) カテゴリー4「現場実習の履歴」

### ア 各実習先の概要 イ 写真

高等部3年間で経験する現場実習についてまとめるシートである。現場実習の事後学習において、それぞれが実習先に関する情報を整理し、自分に合っているところか否かを振り返る学習をするが、その際に活用する。比較や振り返りがしやすくなるように、これまでに経験した数か所の現場実習の情報を一つにまとめた。併せて、過去に自分が取り組んだ作業場면을思い出しやすくするために、写真を貼るシートを準備した。現場実習直後に取り組むことで、記憶が鮮明で、各項目スムーズに記入することができていた。写真を見ることで、現場実習中の作業内容や自分の気持ちを具体的に思い出すこともできていた。

## (5) カテゴリー5「私の大事な進路決定プロセス」

### ア 高等部1年生で頑張る3つの目標

第2期では、生徒版個別の指導計画のシートを作成した。個別の指導計画の目標を本人が自分で記入し、併せて自己評価を行うことで当事者意識がより高まることをねらった。学校が立てた目標をベースとしたが、「いつ」「どこで」「どんなことを頑張るか」に沿って具体的に書くことで、自分の目標の理解がより進むようにした。評価を2回行ったが、振り返る期間が半年と長かったことから、直近の事柄でのみ自己評価をする生徒が多く見られた。長期のことを振り返って自己評価を行うことの難しさを感じたため、このような場合には、1か月ごとの記録をとっておく必要性を感じた。

### イ 私の大事な人生設計図

第1期の生徒たちが高等部2年生のとき、進路に関する個々の情報（下記の4点）をまとめて教室内に掲示していたものを写真に記録した物である。これはSSBの前身であるため、内容の一部をSSBのカテゴリーに振り分けた。

- 2年次までに経験した現場実習先と作業内容→カテゴリー4に移行
- 仕事に関する「得意なこと」と「苦手なこと」→カテゴリー3に移行
- 進路先を決めるときのポイントベスト3
- 現時点での進路の方向性（企業・訓練校・就労移行・A型・B型・生活介護など）

授業で取り組んだことをホワイトボードにそのまま記入するという形で取り組み、ワークシートの代わりとして活用することができた。

### ウ 夢ピラミッド

自分が抱えている将来の夢と、その夢を実現させるために必要となる力をまとめるシートである。夢を実現させるために必要な力は、現場実習後に実習先につけていただく評価票の項目やコメントから 20 項目（「安全」、「スピード」、「集中力」など）を挙げ、その中から自分の夢に関わりがある 5 つを本人が選び記入するようにした。項目の数が多かったため、最初は 1 つ選ぶにも時間を要していたが、作業学習や現場実習の経験を通して、「自分に足りないことは何か」や、「もっと上手になるためにはどうしたらいいか」などを考えるようになった。作業担当者や実習先の方からももらったアドバイスを基に、少しずつ自分の夢に合う力を選ぶことができるようになった。

### エ 進路決定ガイドライン

進路決定に至るまでの高等部 3 年間の流れを示したシートである。見通しをもって様々なことに取り組むことができるように、1 年次から 3 年次までの進路に関わる行事（現場実習や進路相談など）を時系列で表した。項目プレートを手に 3 年間の流れを確認しながら順番に並べていくことで、入学から卒業までの流れが確認でき、見通しを持つことができていた。

### オ 座右の銘

自分を鼓舞する言葉を記入するシートである。座右の銘という言葉は生徒たちにとって聞き慣れない言葉であるため、「ピンチをチャンスに変える魔法の言葉」と言い換えて取り組んだ。日常生活の中で耳にすることわざを 15 個挙げ、自分に合う（好きな）ことわざを一つ選び、シートに記入するようにした。ことわざと意味を結び付けて自分に合うものを選ぶ生徒、言葉の響きが気に入って選ぶ生徒、文字を見て気になったものを選ぶ生徒と選び方は様々だったが、各々が「自分の座右の銘」を一つ選び、記入することができた。

### カ ICF ロボット君

SSB に編集したことを一年の終わりに一枚のシートにまとめるものである。これは知的障害のある生徒たちが ICF（国際生活機能分類）の関連図を理解しやすいように項目事項や配置に工夫を施したものである。項目に沿って記入している姿や SSB の中で関連のあるページを自分でめぐり、振り返りながら記入する様子から自己理解の高まりを感じることができた。

## 2 個別の教育支援計画運用における当事者（本人）の参画状態の変容

2 年間 SSB の作成と活用を進めてきたが、作成過程で生徒たちが自分を知ろうとする姿から、「参画する」ということに段階があることが分かった（図 3）。なぜなら 1 年目の SSB 作成段階（図 3-i）では、自分を知るということが未熟で参画する段階ではなかった。個別の教育支援計画の内容についても、周囲から知ら

されるという受け身の立ち位置であった。そのためこの段階は準備期間に当たると捉えた。しかしこれが2年目になると、SSB作成を通して自分を知ることが少しずつできるようになり、自分の情報を自ら少しずつ発信できる段階(図3-ii)になった。そして3年目は更にSSBの情報が整理され、自己理解が深まる段階(図3-iii)になった。自分から発信すること(機会・情報量)が更に増えた。そのことにより、周りの支援者も個別の教育支援計画を運用しやすい環境が整えられた。

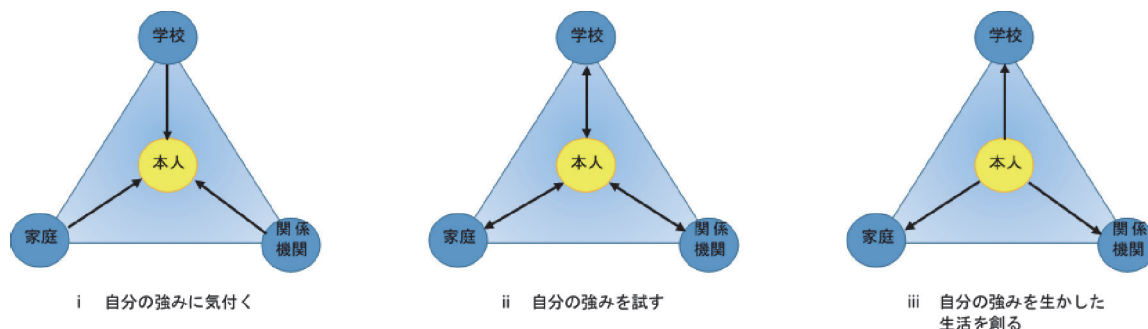


図3 当事者参画への3段階

### 3 関係機関と当事者との主体的な関わりを増やすことの意義

これまで関係機関(障害者職業センターや障害者就業・生活支援センターなど)とのやり取りは教員や保護者が中心であったが、生徒自らSSBを手で自分のことについて生き生きとした表情で担当者とやり取りする姿が見られた。訪問前にSSBの使い方を確認したことで、実際のやり取り場面をイメージすることができ、自信をもって臨むことができたからであると考えられる。卒業後、関わるが増える関係機関と本人が直接話をするすることで、早い段階でつながりをもったり、自ら良い関係を築いたりすることができ、卒業後の安心感につながったと言える。

## 4 保護者の関心度の変容

### (1) 保護者アンケート

第1期で実施したアンケート(4件法)では、「気持ちの整理」、「関心」、「意識」の中で、「気持ちの整理」の評価が一番高かった(表3)。自由記述欄では「積極的な言動が増えた」という回答が多かった。子どもを見る具体的な視点を示したことで、一支援者としての保護者の我が子を見る目に変化が現れたと考える。また、第2期で実施したアンケートでは、帰宅時の様子から保護者が作業内容について向き不向きを考えて記入したり、自由記述欄には「次の現場実習先はこのようところがいい」という具体的な記述をしたりしており、アンケートをとることで保護者が子どもの進路に興味・関心が高まったと言える。



表 3 保護者アンケート結果

	生徒A	生徒B	生徒C	生徒D	生徒E	生徒F
1 現場実習に向けての気持ちの整理	○	○	○	○	—	○
2 働くことへの関心度	○	—	—	○	○	○
3 自身の役割に対する意識度	—	—	—	—	○	—
※表中の「○」は、年2回（6月・11月）の現場実習を通して、生徒に効果的変容が見られたことを示す 1 気持ちの整理ができるようになった 5人 2 働くことへの関心が高まった 4人						

## (2) 保護者用ファイル（P-ファイル）

SSB は、子どもたちの自己理解を促すために本人の情報を整理したものであるが、保護者にも多くの情報があり、整理が必要と考え保護者用ファイル（以下 P-ファイル）を使用した。綴じるものとしては、「個別の進路指導計画」、「個別の指導計画」、「進路のお知らせ」、「学級通信」、「その他関係資料」である。子どものことや子どもの進路に関心を抱いてもらいやすくするために、P-ファイルにより関係書類の整理を促した。進路面談時には P-ファイルを基に話をしたり、説明を加えたりした。

P-ファイルは第 2 期で取り入れた。進路に関する資料の受け渡しや管理がスムーズに行われ、保護者からも「今日は P-ファイルがいますか」などの問い合わせがあり、関心の高まりが感じられた。進路先や実習先に関する質問も保護者から多く聞かれるようになり、これは関係資料や情報を整理した成果と考えられる。

## IV まとめと今後の展望

藤井・高田屋（2017）は、個別の教育支援計画を有効に機能させるための一つの要件として、「計画作成における本人や保護者の参画」を提示している。本研究では、知的障害のある高等部生徒が個別の教育支援計画作成に主体的に参画することを目的とし検討した。その結果、SSB の作成は、個別の教育支援計画を有効に機能させる方法であることが確認できた。また、SSB の作成において保護者の協力は、当事者の参画を更に促すこととなった。

残された課題として、まず、SSB の内容について高等部 3 年間というスパンの中で扱う内容や時期や、生徒の自己理解を更に高めていけるような構成かどうかについて検討していく必要がある。自己理解プロセスを想定した 3 年間の SSB 作成過程（表 4）を作成し、実際に取り組み始めたので、今後実践しながら再検討や改善を図っていく。

また、SSB が生徒自身の可能性を広げるためのツールとして卒業後も活用していけるよう外部への周知を図っていききたい。まずは、現場実習先で SSB の作成の効果を発揮させたいと考えている。具体的には、事前挨拶時の自己紹介でカテゴリ 1 を活用したり、自己アピールでカテゴリ 3 を活用したりするなど、在学中

に関係機関と関わるときのツールとしてSSBを活用していく。これにより、生徒自身が活用することに慣れ、卒業後も継続して活用していくことにつながると考える。そのためにも関係機関への定着と試用をこれから積極的に行っていきたい。

表 4 3年間のSSB作成過程

年次	カテゴリー	SSBの項目	SSBの活用
1	1	(ア) 自分の基礎情報	自己紹介や履歴書などの記入
		(イ) 自分のからだ	現場実習先や進路先への引継ぎ
	2	(ア) 学校①②③	履歴書などの記入
		(イ) 家族構成	必要な場合
		(ウ) 病院 (通院・服薬状況)	現場実習先や進路先との引継ぎ
		(エ) 福祉 (利用サービス・相談支援事業所)	必要な場合
	3	(ア) チェックシート	自己理解の変容や自分の成長を確認
		(イ) 得意なこと・苦手なこと (生活・余暇)	実習先や将来の生活を考える材料
	4	(ア) (イ) 現場実習の記録	進路先を考える材料
		(ア) 1年生で頑張る3つの目標	本人・学校・保護者間で共通理解
		(ウ) 夢ピラミッド	本人・学校・保護者間で共通理解
		(エ) 進路決定ガイドライン	必要な場合
5	(オ) 私の座右の銘	自分の励みとなる言葉の定着	
	(ア) チェックシート	自己理解の変容や自分の成長を確認	
2	3	(イ) 得意なこと・苦手なこと (余暇・仕事)	実習先や将来の生活を考える材料
		(ア) (イ) 現場実習の記録	進路先を考える材料
	5	(ア) 2年生で頑張る3つの目標	本人・学校・保護者間で共通理解
		(イ) 私の大事な人生設計図	本人・学校・保護者間で共通理解
		(ウ) 夢ピラミッド	本人・学校・保護者間で共通理解
		(オ) 私の座右の銘	自分の励みとなる言葉の定着
3	2	(ア) 学校④⑤	履歴書などの記入
		(ア) チェックシート	自己理解の変容や自分の成長を確認
	3	(イ) 得意なこと・苦手なこと (仕事・生活・余暇)	実習先や将来の生活を考える材料
		(ア) (イ) 現場実習の記録	進路先を考える材料
	5	(ア) 3年生で頑張る3つの目標	本人・学校・保護者間で共通理解
		(ウ) 夢ピラミッド	本人・学校・保護者間で共通理解
(オ) 私の座右の銘		自分の励みとなる言葉の定着	
(カ) ICFロボット君		進路先との引継ぎ	

## 謝辞

本研究に協力くださりました A 知的障害特別支援学校の生徒、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

## 文献

- ・藤井・高田屋 (2017) : 「個別の教育支援計画の作成と活用に関する現状と今後の方策～特別支援学校教員に対する質問紙調査から～」, 秋田大学教育文化学部研究紀要, 教育科学部門 72, 93-101.
- ・山田 (1995) : 軽度知的障害者に対する自己理解援助のプログラム, 職業リハビリテーション, 8, 1-7.
- ・LITALICO ジュニアサポートブック第2版 (2016) : [https://junior.litalico.jp/assets/doc/personality/hattatsu/supportbook/index/LITALICOjunior\\_SB.pdf](https://junior.litalico.jp/assets/doc/personality/hattatsu/supportbook/index/LITALICOjunior_SB.pdf)
- ・特定非営利活動法人 WEL'S 新木場 (監) (2015) : ひとりだちするための就労支援ノート, 日本教育出版, 29, 30, 46, 47.